

火山、活動で「ランク分け」へ 今夏にも、噴火予測目指す

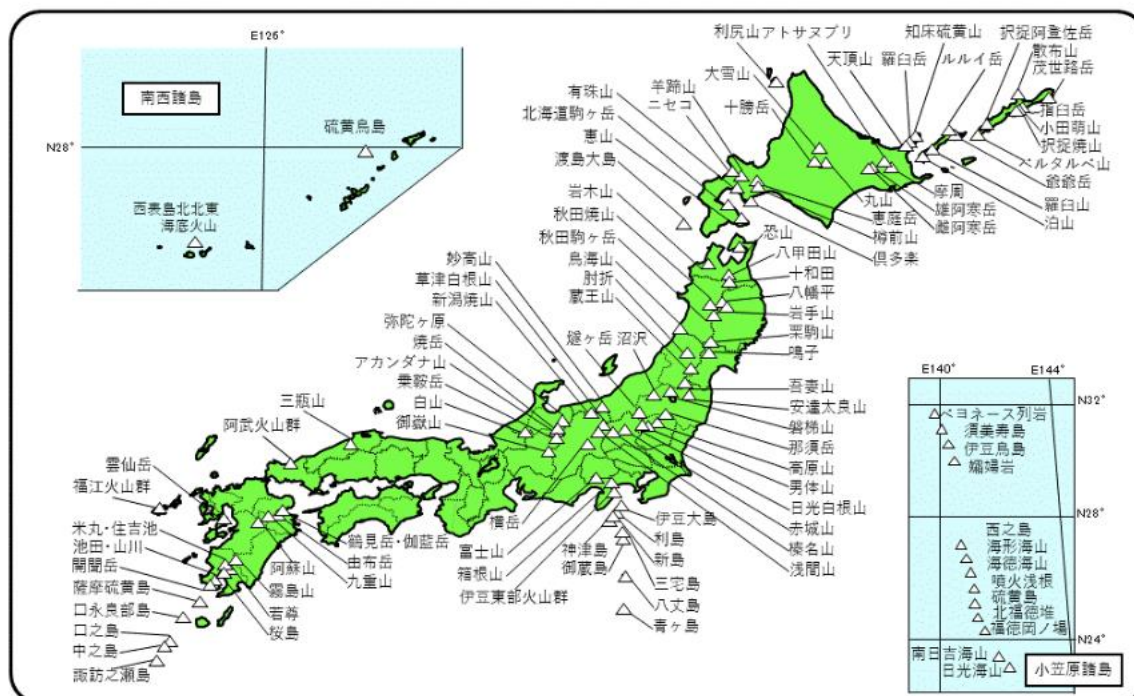
2024年4月1日に発足した新しい組織である「火山調査研究推進本部」は、5月29日に噴火時期や規模を予測し火山被害の軽減を図るため、今後10年間の取り組み方針を示す基本施策を取りまとめました。火山ごとの活動度を評価し、噴火リスクなどで区分する「ランク分け」の実施を決定。部会を新設し、夏にも検討を始めるとの事です。

この組織は火山観測や対策を一体的に担うため設立されたもので、地震については1995年に阪神・淡路大震災をきっかけに「地震調査研究推進本部」が設置されていたのですが、火山について遅れていたと言わざるを得ない状況だったのです。

基本施策として、今後、火山活動評価のための取り組みを進めるとの説明がありました。地震や火山ガスなどの連続的な観測データ解析により、数十年単位の火山活動を総合的に把握していく方針のようです。その上で活動度を客観的に評価する手法と基準を策定して、対象となる活火山の選定やランク分けを実施するとの発表がありました。

以下に日本の活火山の地図があります。活火山とは、「概ね過去1万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山」と気象庁では定義しており、我が国には、111の活火山が指定されています。

我が国の活火山の分布



https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/katsukazan_toha/katsukazan_toha.html

経産省傘下の産業技術総合研究所では、地質関係の研究を行っており(地質調査総合センター)、以下のページでそれぞれの火山の過去の噴火の歴史を確認する事が可能です。



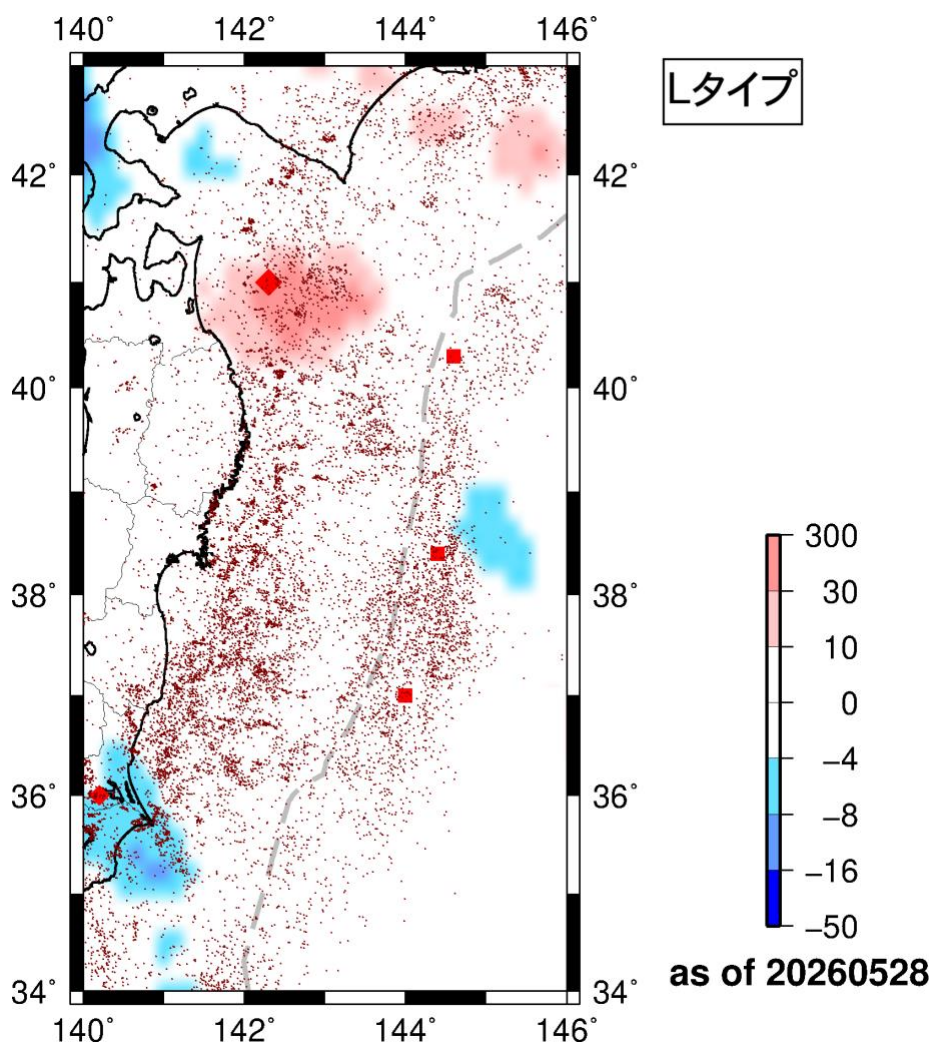
https://gbank.gsj.jp/volcano/Act_Vol/index.html

<https://gbank.gsj.jp/volcano/cgi-bin/map.cgi>

また併設されている**地質標本館**は日本列島の成り立ち、火山や地震、鉱物、岩石、化石、地下資源などを、実物標本や模型を通してわかりやすく学ぶことができます。専門家向けの研究資料だけでなく、子どもや一般の来館者にも親しみやすい展示が多く、地球の歴史や自然災害を身近に感じられる場所です。日本の地質を知る入口として、教育・防災の面でも重要な施設と考えます。つくばにいらした際には、ぜひ見学される事をお勧めします。

東北地方海域の地下天気図®

今週は4月20日のニュースレターに続き、5月28日時点の東北地方海域を中心としたLタイプ地下天気図をお示しします。3月2日のニュースレターでは「茨城県・千葉県地震活動静穏化がほとんど消失した」という事を報告させて頂きました。ところがその後の解析で、再び当該地域に青い地震活動静穏領域が出現している事がわかりました。



また、北海道・三陸沖後発地震注意情報発令につながった青森沖では、依然として活発な地震活動が続いています。さらに北海道南西部の地震活動静穏化も続いている事がわかりました。



DuMA ダッシュボード

6月1日時点のダッシュボードです。今回は新たに北海道西方沖に **(L1)** の異常を追加しました。
前回からコメント等が変更・追加された部分を太字で表現する事にいたしました。

Jj の静穏化異常領域で昨年12月と今年4月に後発地震注意情報発令のきっかけとなる M7クラスの地震が発生しました。そのため **Jj** の異常を **Mm** の活発化異常として再定義して表示いたしました。

Bb の中国地方の静穏化異常は1月6日の地震で当該地震発生という事から削除しました。

Hh の紀伊半島の静穏化異常も5月2日の地震で当該地震発生という事から削除しました。

W の小笠原周辺の活発化の異常を削除しました。

更新日

2026.6.1

地下天気図® 解析	地域	警戒度 (異常の確度)	現状	静穏化・活発化期間		予測有効期間	備 考
				いつ頃から	いつ頃まで	関連情報	
静穏化異常 継続中	北海道西方沖 (L1)	Medium	陸域を中心とした地下天気図で静穏化が出現	2026年1月	継続中		発生するとしてもマグニチュード7以下か
静穏化異常 解消	宮城沖を中心とする アウターライズ 地域 (R)	High	日本海溝の東側（アウターライズ）の地域で静穏化が継続中	2020年9月	2025年12月 解消	解消と判断してから6ヶ月ほど 当面2026年6月迄	アウターライズ地域でM7クラスが予想される
静穏化異常 継続中	茨城県沖・千葉県 沖・房総半島 (Kk)	High	首都圏の地下天気図でも、東北地方を中心とした地下天気図でも静穏化継続中	2025年5月	継続中	房総半島南部でも群発地震を観測	茨城県、茨城県沖、千葉県、千葉県沖を含む領域
静穏化異常 継続中	九州北部・西部 (Y)	Medium	福岡県を中心に静穏化を確認、現在静穏化の中心は佐賀・長崎方面へ移動	2023年10月	継続中		静穏化の中心は長崎県西方海域が中心となっている
静穏化異常 継続中	九州南方海域 (Oo)	Medium	異常は屋久島、種子島を中心に観測されている	2025年12月	継続中		陸域および海岸線付近の地震データを使った解析で出現 発生するとしてもM7程度か
活発化異常 継続中	青森沖・北海道沖 (Mm)	High	2026年4月の後発地震注意 情報発表後、継続して活発	2025年12月	継続中		当該領域は、静穏化が継続していた。対応する地震として 2025.12.8にM7.5、2026.4.20に M7.7の地震が発生
活発化異常 継続中	能登半島周辺 (S)	High	2024年1月1日、令和6年能登半島地震が発生！能登半島の東側（佐渡島側）も西側も歪の蓄積がさらに進行している	2021年9月	継続中		11月26日に能登半島西方でM6.4の地震が発生。今後は能登半島の東側（佐渡島近傍）での誘発地震の発生が危惧される
活発化異常 継続中	日向灘 (Ff)	Medium	2024年4月に豊後水道でM6.6の地震が発生したが、この活発化は宮崎沖が中心	2024年2月	継続中		2024年8月8日、臨時情報発表の元となったM7.1の地震が発生 さらに2025年1月13日にもM6.9が発生